

ホテルの生息環境の調査および保護活動

地域連携で ホテルの再生を!



自然科学部のメンバー

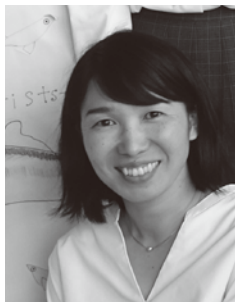
失われた初夏の風物詩を復活させる

香川県立香川中央高等学校がある高松市香川町大野地区は、住宅街ながら豊かな自然が残る地域だ。しかし、近年は付近の小川にホテルが乱舞する初夏の風物詩も見られなくなった。そこで、香川中央高校自然科学部では、地域の「大野コミュニティセンター」や高松市立大野小学校と連携してホテルの再生を目指している。自然科学部の担当は水質調査とホテル減少の原因究明、そして再生のプロセス構築だ。

2017年度からは月に2回、気温や水温に加え、COD（化学的酸素要求量）、NH₄（アンモニウム）濃度などを計測する水質調査を行い、ホテルのエサとなるカワナガが繁殖しやすい環境を整える必要があることがわかってきた。



香川県立香川中央高等学校



●実施担当

岡井有美 教諭

●活動のモットー

自然や郷土を大切に思い、生命を敬う心豊かな人間に育つために、生徒たちが身近な自然に関心を持つように心がけている。



出前授業での説明



出前授業で子どもに協力



水質調査

地域のつながりと地元愛で夢の実現へ

ホテル再生の環境整備にはまだ課題も多い。しかし、自然科学部顧問の岡井有美教諭が「部員たちは地域とつながることに楽しさや喜びを感じています」と話すように、地元愛や地域連携の強固さは課題解決への心強い武器になる。地域のイベント参加にも積極的で、大野ホテルまつり実行委員会主催のホテルまつりには、自然科学部員をはじめ毎年多くの生徒がボランティアとして参加し、地域の小中学生とも交流を深めてきた。

こうした活動もあって、2018年度には15人の新入生が自然科学部に入部。総勢27人となり、大野小への出前授業や県内のホテル保護団体との交流で地域連携の幅を広げている。部長の川田珠栄さんは「ホテルの再生を通じて部に一体感が生まれ、地域の方々との交流も深まりました。将来は保育士になって、子どもたちと地元のホテルを見られたらうれしいです」と地元愛に溢れる夢を語ってくれた。（平成29年度プログラム助成）

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索